

## 会 議 録

全部記録    要点記録

<b>1</b>	<b>会 議 名</b>	令和2年度 第1回姫路市環境審議会
<b>2</b>	<b>開催日時</b>	令和2年7月22日（水曜日）14時00分～15時30分
<b>3</b>	<b>開催場所</b>	姫路市総合福祉会館 第1会議室
<b>4</b>	<b>出席者又は欠席者名</b> （敬称略）	<p>（出席者）中瀬勲（会長）、長田秀人（副会長）、家永善文、石井宏治、岩田稔恵、浦上文男、杉江他曾宏、竹田浩章、通山由美、西村正喜、菅井公美子、長谷川尚吾、花嶋温子、星尾隆文、吉田裕康</p> <p>（欠席者）小河晶子、小島理沙、中川公恵、中野和子、林叔子、藤田美知枝、山村充（事務局）環境局長、美化部長、環境政策室長、美化業務課長、環境政策室主幹、美化業務課2名、産業廃棄物対策課1名、環境政策室2名</p>
<b>5</b>	<b>傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可 0人
<b>6</b>	<b>議題又は案件及び結論等</b>	<p>1 議題</p> <p>「姫路市環境基本計画」の策定（諮問第1号）</p> <p>・姫路市環境基本計画（素案）について</p>
<b>7</b>	<b>会議の記録</b>	詳細は別紙参照

1 審議事項

「姫路市環境基本計画の策定」（諮問第1号）

- ・姫路市環境基本計画（素案）について

2 会議の記録

(1) 資料説明

「資料1 環境基本計画策定のスケジュール」について事務局説明。

質疑応答

特になし

(2) 資料説明

「資料2 姫路市環境基本計画（素案）」について事務局説明。

【資料2に関する意見等（要旨）】

委員：17頁「一般廃棄物の資源化率」を指標として掲載しているのはなぜか。住民の努力を表さないのではないか。新聞、雑誌等が減り、紙が少なくなったことで、そもそもリサイクルの量が減っている中、取組の指標とすることは相反するではないか。

事務局：姫路市の資源化率は行政の回収物のみの集計であり、民間での回収率が把握しづらい。一方で、国が示す指標の中には未だに「資源化率」が含まれている。よって、分子に着眼するのではなく分母（総量）を減らせば資源率が上がると考えている。しかし、資源化率の目標値の設定が終わっていないので、現段階では外しづらい状況である。

委員：資源化率を外している行政はたくさんある。違う形で評価できないか。国や県と連動していなければならないわけではない。分母（総量）を減らすなら、それを指標にしてはいいかがか。

事務局：2年前の「一般廃棄物処理基本計画」策定時には、国や県とは異なる、独自に実現できる数値を設定している。今後、状況が変わっていくようであれば一廃計画や、環境基本計画の中間見直し時に外すことも検討したい。

委員：レジ袋の処理法はどうしているのか。燃やしているのか。

事務局：可燃ごみの袋に入っていると焼却されるが、「プラ」表記のあるレジ袋は容器包装プラスチックとして回収されれば再資源化されている。

委員：64頁以降のリーディングプランについて、「レジリエンス」や「水素」などは一般市民が理解しやすい用語だろうか。また、一般市民あるいは企業がここに向けて具体的に何をやっていけばよいのかが分かりにくい。

事務局：本計画は「基本計画」であり行政計画の側面が強く、特にリーディングプランについ

ては、行政が主体で実施する部分が多いテーマを選んでいる。また、計画に重点的に取り組むテーマとして位置づけることで、予算を獲得しやすいという側面もある。

特に「レジリエンス」については、今年度から家庭用蓄電システムの助成を始めていくことや、昨今の気象状況から、市民からの災害対策への関心が強いことも考慮し、リーディングプランに使用している。

「水素」に関しては、天然ガスとの親和性の高さや、姫路市に世界で最も多く LNG 発電所が集積していることから、将来的に「水素」と LNG の混焼による発電など地域のポテンシャルの高さを考慮して、リーディングプランに位置づけている。

地域資源については、播磨地域の中心都市として栄えてきた地域の魅力を活かすことが環境の保全にもつながるということを重視した。

委員：市の総合計画のスタンスは、各主体の役割を明確にしていくという趣旨もあるので、環境基本計画においてもそこを明確にしていけば分かりやすいと思った。総合計画でも用語の難解さは指摘された。用語については、易しくしたほうが市民の理解が進むのではないか。

副会長：他の委員会などでも同様の話が出たが、本計画は県内でも主要都市である姫路市の審議会が答申するものであり、当然様々な方面からも注目されることから、ある程度はアカデミックな言葉・難しい言葉も必要ではないか。しかし、答申後に施策や事業として一般市民に説明する際には平易な用語を使用して分かりやすく伝えるべきだろう。

また、SDGs は扱う内容が幅広いが、アイコンを示すだけでは分かりづらいのではないか。

57 頁プラスチックについては、レジ袋に生ゴミを入れて捨てる人もいる。プラスチックの種類、汚れの問題など、本気で取り組もうとすればするほど敷居が高くなり、結果的に分別がずさんになってしまう。

先程の資源化率について、我々は自治会などの地域レベルで新聞や段ボールを捨てずに集めるなどの取組をしている。よって、資源化率という指標については一概にそれをやめたら良い、という問題ではないと思う。

会長：意見を整理する。リーディングプランの項目のわかりにくさについては、計画の前半部分（第 2 章など）で示していることがリーディングプランにどう関わっているかを明記すれば、指摘への対応となるのではないか。

姫路市は日本の中でも生産性の高い都市、様々な問題を克服しての今があるというストーリーが大事である。「地域循環共生圏」はこれまで積み重ねてきたことであるという自信をもって、ボトムアップ的な書き方にしてはどうか。リーディングプランの「地域資源」については、大変分かりやすい。「レジリエンス」と「水素エネルギー」の部分には、もう少し分かりやすい話をうまく交えようではないか。

事務局：行政計画的なイメージに偏っていることを認識し、「レジリエンス」などの用語を説明する頁を設けることや、SDGs のアイコン表示を工夫するなど、分かりやすくなるようなデザインについて検討したい。リーディングプランの書き方についても、分かりやすくなるよう工夫したい。

委員：姫路市の市民が生ゴミのコンポスト化に取り組んだり、年配者だけでなく若者もスーパーなどで分別ボックスを利用しており、姫路市はきちんと取り組んでいると思う。39頁の①環境学習施設機能の充実・強化、⑥環境学習出前教室の実施について、具体的な今後の取組を聞きたい。

事務局：39頁①については、網干環境学習センターを中心とし、その地域の特性を活かした環境学習の充実を考えている。⑥については、市の環境学習リーダー養成講座を修了された方が小学校を訪問し環境学習の出前教室を行っている。それらの取組を今後も拡充していきたいと考えている。

委員：57頁「推進施策5－（1）循環型社会の構築」の現状と課題の2項目について聞きたい。3Rなどの資源生産性とレジ袋にどのような関係があるのか。一層強化していく取組とはレジ袋削減の話なのか。より具体的に書き込んだ方がいい。

また同ページの取組方針3つ目のPCB廃棄物の高濃度の分については、もう終わると思うので、10年後に見た時におかしくない書きぶりにしたほうがよい。

事務局：レジ袋に関しては、分かりにくい内容になっているので、現状の動向を踏まえながら、「姫路市ではしっかり取り組んできているが、この有料化を契機に更に加盟店等を増やし、現在把握している削減枚数から、加盟店増加による削減枚数の把握に努めて、レジ袋削減と海洋プラスチック問題に取り組む」という事が分かり易くなるよう修正する。

事務局：PCBの処理状況について、高濃度のPCBは来年の3月が一つの区切りになっており、現在残っているものを処理するよう周知しているところである。低濃度の方は、まだ処理の終了期間が数年残っている。そのあたりの記載方法について工夫したい。

委員：この10年を見据えた本計画は素晴らしい。水素のように行政が予算を取るための部分も重要であると思う。

一方で、ゴミを細かく分別している人、分別していない人がいる。面倒な分別などができる意識の高い市民を増やしてもらいたくて、高校生を対象にアンケートをしてもらった。市民に対して、できることを、できる形で、協力をお願いする。市民ができるような目線で書くことが大事である。例えば、食品ロスは買い過ぎる人が悪いわけで、必要な物だけを買えばロスはない。そのような事を再認識させる。“もったいない”意識を常に持つようにし、使えるものを使うというような意識を市民に埋め込んでいってほしい。それがこの会議の趣旨だと思う。

レジ袋の取組については、かなり昔から姫路市は取り組んでいるので、胸をはって活動していけば良い。

「水素」については、環境にやさしくエネルギー問題の解決策となりうるものであることや安全性への担保など、もっと市民に分かりやすく記載し、市民の理解を得やすいような配慮があればよいと思う。

委員：市民が地道に分別を頑張っているといった取組が記載されていない。

また、SDGsのアイコンの中に5番「ジェンダーギャップ」がない。どこかに入れられ

ないかを検討してほしい。

会長：7頁の囲みの記事「世界文化遺産姫路城 平成の大修理」のようなコラムを、もっと入れてはどうか。市民の活動をこのように記載すると分かりやすい。

また、外来種の話が全く入っていないので、どこかで入れた方が良いのでは。

8頁は、環境省が瀬戸内法を大幅に変えており、そんな情報があれば少し入れてはどうか。

11頁の姫路の水産物については、「食の生態系サービス」というキーワードが入ると良い。

13頁の伝統文化については、祭りの盛んな地域の生産性の高さをうまく合わせて書いてはどうか。

21頁の市民意識アンケートを実施した時期がコロナ感染防止対策の強化期間中だったが、その特異性が影響する設問はなかったかを検証し、特異性等が見受けられないようであれば、その旨を記載してほしい。

31頁の Society5.0 についてはリモート、在宅勤務など今後の働き方についてなど、コロナ関連の問題について、今何が起こっており、将来にどうつなげていくのかを考えてもらいたい。

リーディングプランの3つはこれで良いと思う。姫路市だけのことではなく日本中にも通用する内容である。地域で起きていることとジェット気流的に落ちてくる世界や国からの流れをミックスして、姫路らしさに焦点を当てると良いのではないか。

それでは、最後に事務局から今後の予定について説明をお願いする。

事務局：本審議会での意見を反映して最終的な答申案とし、会長から市長に答申することとしたい。

会長：その方向で進めたいと思う。最終的な記載内容については、事務局と私で調整の上、11月に市長に答申したいと思うので、ご了承いただきたい。

委員一同：（異議なし）

以上